

広報

なんこく

8/15 1973 No.155

編集・発行／南国市広報委員会
1日と15日の2回／全戸無料配布



保存しておくとは参考になります。

■ 予防接種や検診など市のお知らせがのっています。見ぬかりのないように気をつけてください。
■ 地区連絡員さんには、ご苦労ですが、よろしく願います。

43,000人の顔……なんのこれしき男だもん。ママの心配をよそに、グッとこらえるチビっ子もいる。

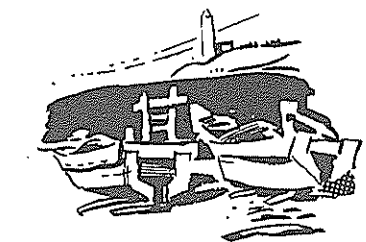
——市役所での予防接種——

部落解放への道

部落についての俗説



「部落の人たちは、昔、人のいやがる仕事（特に牛馬のと殺やその処理など）をしていた人びとの子孫ではないか……」という考え



今から二千年くらい昔に、日本列島へ、中国から稲を作ることが伝えられるまでは、すべての人びとは原始的な集団社会をつくって生活（というより生きていた）といった方が適当かもしれない。生きていた時代は、みんなが協力して食物をもとめ、ようやく生命を支えていました。男たちは集団で獣を狩り、これを殺して肉を食糧にし、皮をはいで身にまといて生きていました。

大人に訴える

幡多郎 中学生

「未解放部落」とあなたは言う。あの人は部落の人とあなたは言う。僕たち子供にとってこんないやな言葉はありません。この一語一つでいくつもの生命がうしなわれるのです。同じ人間同志でありながら人間が人間を人間と思わず、ゲジゲジやミミズのような虫けら同様に思い差別して……部落民を苦しめ……悲しめ死にまで追いやるこのことは、大人はこのことは平気でつか

い 一人この世からおい出して自分は堂々と生きている。こんなこんな事、平気でおこなわれている大人の世界。僕は大人になりたくない。このまま子供でいたい。しかし僕は成長して大人にならなければならない。大人になろうとしている大人の大人達よ、この僕のふあん子どもたち皆んなの不安をふきけし立派な社会人として生きていける社会をつくって

「牛馬を殺してその肉を食う」とは、けがれたこと」とした考え方について「仏教が盛んになるにつれ殺生をきらい風が強くなったため」と説明する人もいますが、これだけでは不十分です。むしろ牛馬は農耕や運搬のための生産原動力であり、しかもその当時牛馬の数は少なかつたので、これを殺すことを禁止するため仏教の殺生戒を政治的に利用したと解釈するのがより妥当かとも思われます。例えば、聖武天皇の天平十三年の詔に「牛馬は人にかわって働き、人を養うものである。だから牛馬を殺してはいけない、聞くところによると諸國の百姓の中には、いくらとめてもいこうことを聞かず、殺すものがあるやうだが、もしそのようなことをすれば、牛、馬、あるいは子牛であろうと百たたきにしたうえさらに重い罪につける」とあります。このような詔は桓武天皇の頃にも、その他の天皇のときにもほぼ同じような禁止の詔が出されていることから明らかです。狩人（猟師）が鹿や猪などの獣を殺して生活することは禁止されたことはないし、中世以降、貴族や武士たちが鷹狩りをしたり巻

狩りすることなどは奨励されても禁止されたことはありませんでした。天皇自らも「御園園め」などという時々肉食していたことなどからみても、獣を殺したり肉を食べたりすることなどは決していやしい事とは考えられていなかったのです。また獣の皮をなめしたり、加工したりする仕事は、大切な仕事でした。特に戦国時代

には、皮は馬具や武器の材料として優遇されていたこともあり、のち、徳川時代に入り、幕府が身分制度を確立して行く施策なかで、百二十余年の長い年月をかけて、士・農・工・商の四民の下へ賤民を法的な制度としてつくりあげて行きましたが、この時に賤人身分の人たちを、身分と住居と職業とで固定して行く方策をとり

ださい。そのために、部落差別をやめて人間が人間を

人間が人間を人間として大事にされる世の中に一日も一日も早くしてください。

すなわち、差別される身分の人たちを政治的につくりあげ、その人たちの仕事を賤しい仕事として差別するようにしむけたのです。

あなた、

何歳です



▽はい、八十歳になりました。

▽はい、七十歳になりました。

▽今にちは、ボク、生まれたばかりの0歳児です。

▽ボク、まだ歳がないの。だってボク、まだお母さんのお腹の中にいるんだもん。

該当の方は、一度、市民課給付係におたずねください。くわしく説明いたします。

▽それではあなたは、南園市老人年金がもらえます。南園市老人年金は、八十歳以上の方に毎年三万円が支給されます。

▽あなたは、老人の医療費が無料になる対象者です。七十歳以上の方で所得などが大変多い人以外はすべての医療費が無料になります。

▽おめでと。あなたは、誕生日の月までの十三カ月間、医療費が無料になります。では元気に育ってくださいね。

▽元氣そうだね。キミには、お母さんに母子手帳をお渡しするとき、キミやお母さんが元氣かどうかを診察していただく無料の医療券を渡しているよ。それでは元氣でね、バイバイ！

南国市豊年祭

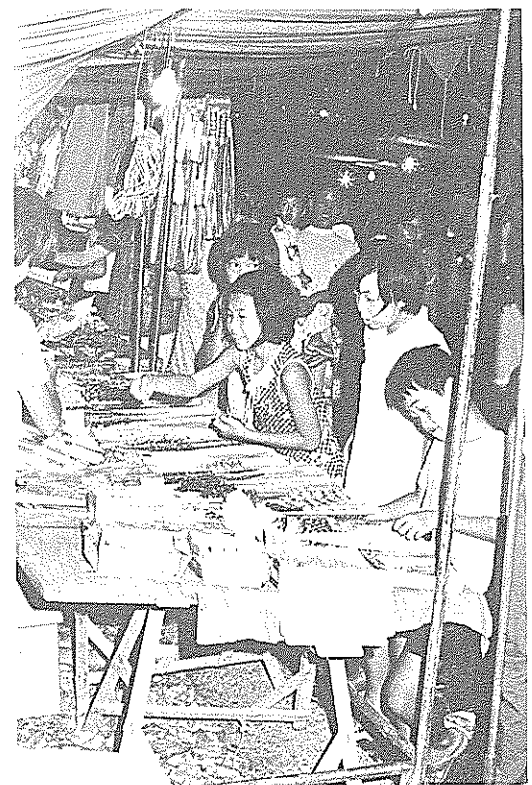
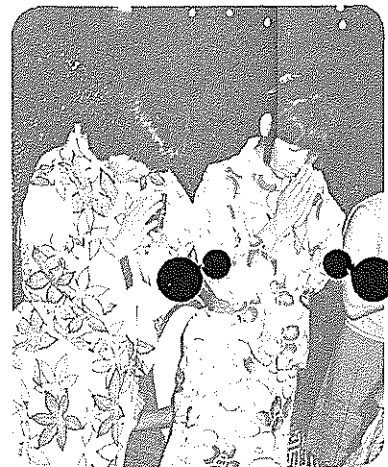
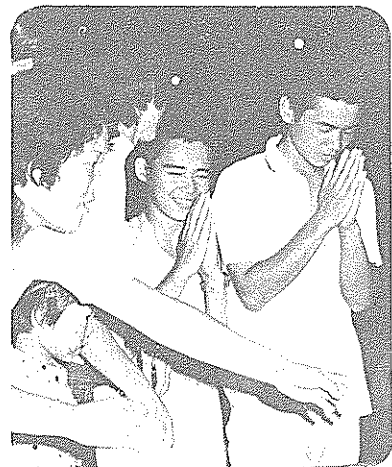


- 9月8日(土) 午後6時から
- 市役所広場と後免町の周辺
- アトラクション 盆踊り・花火・賞品券のばらまきなど。
- 参加の申し込み 市教育委員会社会教育課

市民が市民として共通の発展意欲をもち、あわせて老若男女の乱舞する和やかな雰囲気の中で、新たな生産への情熱を啓発しよう。と、市連合青年団を中心に第1回目の豊年祭りが行なわれます。



祭りの声に さそわれて



祭りの情緒は夜店と提燈、ゆかた、下駄、カーバートのにおいこそなくなつたけれど、金魚すくい、花火、風鈴、なつかしい伝統の情緒がここにはある。六月三日、祭りの声に誘われて日吉神社に行つてみました。

「清水へ祇園をよぎる桜月夜こよい会う人みな美しき」身謝野品子がこう歌つた時、人はみなゆかたを着て下駄をはいっていたことでしょう。

下駄の肌ざわりには湯あがりの爽快感がある。カランカランとなる下駄をはいた時の気持は平和です。のどかです。やかましい都会の雑踏の中では、人の心は素漠としたものになります。けれど、も下駄で歩くと、下駄の肌ざわりが、湯あがりゆかたの肌ざわりとちがうのでしょうか、不思議とイライラした気分が静まるのです。

また、夕方、会社から帰つてゆかたに着がえると、ネクタイや靴の呪縛から解放されてホッとします。当然、人の表情はなんでもやさしくなる。だから祭りであつた人は、みな美しいのです。「人間がみな下駄をはけば戦争はできない」といったのは誰であつたか——。

考えてみると、下駄をはくことが少なくなり、ゆかた姿が少なくなるにつれて、人間関係も乾燥してきているようです。むかしは、ゆかた姿で練台に涼む光景があちこちにありました。しかし練台の場所は車の洪水で奪われ、忙がしい世相は下駄もはかせてくれません。

人間性の喪失がかわれる時だから、年に一度のゆかたや下駄に集積される祭りの気持を心にとめて置きたい。

一心にお祈りする人の姿は美しい。お祭りの広場は、どうやら人間性の復権が無言のうちに叫ばれている広場のようです。

ご存じありませんか

中国からの未帰還者

わが国の未帰還者は、戦後二十八年を経た今日でも、数多くの人々が中国に残留を余儀なくされています。

これらの戦争犠牲者の中には、未だに消息不明の人々があり、また消息が判明していても、県や市町村に届出がされていないものがあります。

高知県出身

戦時死亡宣告者

- 調査係、電話〇八八八二二二一
一〇二一、内線三三七、へてきるだけ早くご連絡ください。
- また、死亡処理（本県関係「殉難者名簿」その他）あるいは生死の確認をされずに死亡扱いとなつた（次に掲げる本県関係「戦時死亡宣告者名簿」による中国関係）ものの中で、関係者からその生死の再確認を要望されるものも相当数あると思われまます。
- つきましては、これらに該当する人々につきなんらかの消息（氏名、生年月日、性別、本籍地、住所、最終消息……氏名だけでもよい。その留守家族、または遺族の氏名、現住所など）をご存知の方は、市・県または高知県未帰還者等援護対策促進協議会（高知市丸の内一丁目二の二十、高知県世話
- ▼南国市
 - 原 鈴子
 - 和田 千恵
 - 和田 正
 - 遠藤 三三
 - 上村 修
 - 岡上 和輝
 - 石川 千代
 - 藤本 花栄
 - 吉良 雅志
 - ▼高知市
 - 深田 浅治、坪内節、宮崎達彌
 - 田所正治、市原和雄、市原将、前川玉枝、浜田正幸、竹村高茂、嶋川ヨリ子、竹内主太郎、田中耕吉、前田春子、山岡広、仲沢満男、中西岩樹、岩崎鼎、山崎芳馬、山崎
 - ▼吾北村
 - 伊藤源
 - ▼中土佐町
 - 中沢伊勢松
 - ▼窪川町
 - 谷村百菜、谷村榮美子、谷村榮子、谷村征一、栄田友次、浜田克子、竹添ナヨ、西岡美代子、西村正一郎、田村武子、中村美知子、
 - ▼日高村
 - 谷本みや、森下半、森下初野、
 - ▼葉山村
 - 大崎義麻、下元辰夫、高野タマ、
 - ▼東津野村
 - 戸田満明、戸田満佐子、戸田良夫、小笠原久雄、
 - ▼梶原町
 - ▼吉野町
 - 山崎獅子雄、徳能茂
 - ▼吾川村
 - 土室俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義

- ▼吉野町
 - 山崎獅子雄、徳能茂
- ▼吾川村
 - 土室俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義
- ▼吉野町
 - 山崎獅子雄、徳能茂
- ▼吾川村
 - 土室俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義

- ▼吉野町
 - 山崎獅子雄、徳能茂
- ▼吾川村
 - 土室俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義
- ▼吉野町
 - 山崎獅子雄、徳能茂
- ▼吾川村
 - 土室俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義

- ▼吉野町
 - 山崎獅子雄、徳能茂
- ▼吾川村
 - 土室俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義
- ▼吉野町
 - 山崎獅子雄、徳能茂
- ▼吾川村
 - 土室俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義

- ▼吉野町
 - 山崎獅子雄、徳能茂
- ▼吾川村
 - 土室俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義
- ▼吉野町
 - 山崎獅子雄、徳能茂
- ▼吾川村
 - 土室俊幸、上村みよし、竹内光義、前野里義

共同募金

たすけあいの輪を広げよう

先進国では共同募金に「あなた」の一日分をといわれて、一年間のうち一日分を共同募金に寄附して、お互いの住む社会への恩返しをし、残りの三百六十四日を自分の生活のためにするということとです。

ことしも、ぜひ年に一度の共同募金へみんなの善意をおよせください。

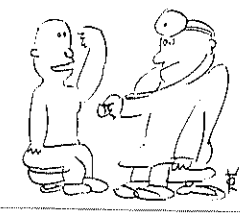
今年目標額 二百十万円
昨年度は南園市で百八十四万五千円、南園市で百八十四万五千円を集まり南園市へ配分を受けた額は、三百五十万二千円でした。

この金額は、次のように配分されました。

市の社会福祉協議会へ 二十六万一千円
市の十七地区社協へ

- 六十二万一千円 私立浜改田保育所へ
- 二万四千元 子供の遊び場へ
- 七万九千円 ねたきり老人へ
- 十四万八千円 交通通児・母子世帯へ
- 二万七千円 火災見舞金へ
- 千円 重症心身児・土佐希望の家へ
- 百七十二万六千円 特別養護老人ホーム・土佐清風園へ
- 五十二万五千円 土佐清風会へ
- 十万円 社会福祉協議会へ

すすんで受けよう ガン検診



ガンにもいろいろありますが、日本人の場合には男女とも胃ガンが圧倒的に多く、つぎに男性では肺ガン、女性では子宮ガンが多くあります。

ガンは、不治の病気として恐れられてきましたが、今ではちがいます。

ガンが表面にとどまっているうちに発見し、手術をすればそのほとんどがなおります。

発見がはやくればおくれるほど、ほかの力所にも飛火しにくくなります。

ただ、早期のガンには多くの場合、症状がありませんので、定期的健康診断を受けることが必要です。

できれば半年一回が理想的ですが、少なくとも年一回は受けることが大切です。

▼ガンの危険信号八カ条

1. 胃の具合がわるく、食欲がなくなり、好みが変つたりしないか
2. おりものや不正出血はないか (子宮ガン)
3. 乳房のなかにシコリはないか (乳ガン)
4. のみこむときに、つかえることはないか (食道ガン)
5. 便に血や粘液がまじつたりしないか (大腸ガン)
6. 直腸ガン
7. なおりに
8. 尿の出がわるかつたり、血がまじつたりしないか (膀胱ガン、前立腺ガン)

(かいよう) はないか (舌ガン、皮膚ガン)

このような症状があつたら、直ちに診てもらつて、ガンでないことを確かめておきましょう。

献血で 真の助け合い



真の助け合いのありがたさというものは、平穩無事なときにはわかりにくいものである。極端な場合、お互いに苦境に立たされたときに、始めてそのありがたさを知るのである。

平穩、さも当然のことのように受けとめている太陽が空気がもし突然なくなれば、たちまちにして生物の存続がやぶまれるであろう、それは想像に過ぎないが、しかし水につかしては現実におこりうらなれば、飲料水に困るし、作物の植付けもできず、時には紛争の原因ともなる。

現に私達は年に何回かは水不足で節水を強いられる時期を経験する。そんな時こそ水のありがたさというものが身にしみてわかる。

平穩無事なときは、多かれ少なかれ友情も利害関係に結びつくが寸秒の後の生命の保証のない弾丸の下では、もはや利害関係はない。あるものは真の友情であり助けあいである。これが本当の戦友であり

涙のほどありがたいものであつた。献血もまた同じである。平穩無事なときには献血のありがたさはわからない。血液のありがたさはやはり血液の必要当事者でなければ真のありがたさはわからないはずである。

献血をする者の中には万一の場合のことを考えて献血をしてくださる方もあろうが、平穩無事なときにはやはりの心と底に損得勘定が走り、なんだか損をしたような気持ちもあつたりする。

しかし仮に献血するの必要があれば、それは健康な証であり最大の幸ではないだろうか。

今日のような経済情勢の激しい時代に、誰一人として利益を追求しない者はない。むしろ当然のことである。

だからこそ利益を追求したい心のふれあう真の助け合い精神がほしいものである。

人間が万物の霊長であるだけに、



こくち・ばん

■南国市展の作品募集

南国市美術展覧会は、11月25日から12月2日までの8日間、市立市民体育館で開かれます。

▼出品部門と審査員

洋画・工芸(筒井広道、大野竜夫) 漫画(平山昌幸) 写真(畑山裕紀、高知新聞写真部) 書道(三本三千方) 日本画(田岡耕作)

▼搬入の日

11月21日(水) 午前9時から午後5時まで

▼出品手数料

1人3点まで1点につき100円 それ以上は1点ますごとに50円。

▼幼児・児童・生徒の部は、11月7日(水)が搬入日。出品部門は図画・習字・写真・出品手数料はいりません。

■オールドパワー文化展

第2回目の老人の展覧が、9月12日から16日まで郷土文化会館で開かれます。

出品部門は、洋画、日本画、写真、工芸、書道、盆栽。

搬入は、9月10日です。

お母さん 赤ちゃん 無料牛乳です



お母さん、これは生まれてくる赤ちゃんのため、母体のために支給する牛乳です。妊娠中の健康をまもり乳児を健全に成長させる目的で支給されるものです。こんどその支給範囲がひろがりました。受給資格は次のとおりですが、保護世帯、市民税非課税世帯、所得税非課税世帯の方に限ります。

▼受給資格

妊婦申請の翌月から出産の月末まで

犬は正しく 飼いましょう



産婦申請の翌月から三カ月間乳児申請後、満四カ月から三カ月間申請のしかた
母子栄養食品(牛乳)支給申請書に母子手帳をそめて公害環境課へ出してください。
▼支給方法
有資格者で申請書を出された方は、近くの牛乳業者から毎日牛乳一本が支給されます。

▼登録は毎年四月に一回、狂犬病予防注射は、四月と十月の二回です。
▼犬は鎖につないで飼おう
▼門には犬を飼っていることがわかるように門標をつけよう
▼不用犬は捨てないようには、野犬が大きな社会問題となっています。絶対に捨てないように、不用犬は毎月二、三曜日の午前九時三十分から十時まで、市役所北側の駐車場で引き取っています。九月のひき取り日は十月です。必ず印鑑を持ってきてください。
▼十月には、ことし二回目の狂犬病予防注射がありますが、前回までとちがいで、各戸配付のチラシは作らずに、九月十五日号の広報に日程を載せますので注意して見てください。

愛の献血 岩貞昭三さんら 表彰

毎年七月一日から三十一日まで行なわれている「愛の血液助け合い運動」が、今年も全国的に展開されました。県下のにも

いっそうの献血思想の普及と組織の充実などに力を入れ、県では七月二十五日、才五回高知県献血推進県民大会を開き、体験発表、講演、多くの功労者、団体に感謝状を贈り、さらに献血事業の推進に努めることを全員で誓いあいました。

市でも毎月二十日を「愛の献血日」と定めて献血を実施してきました。

六月二十八日は協和農機で白八人の協力で八十八本の献血を



動物愛護週間

この9月20日から動物愛護週間が始まります。

私たち人間どもに基本的人権が尊重されるように「ワン権」や「ニャン権」も認められてしかるべきです。

写真ニャンとも仲のいいワン吉くんとニャン子ちゃん。

児童・特別児童扶養手当の受給者に

児童扶養手当、特別児童扶養手当の九月期支給(九月十一日)と証書の交付は、国会がおくれていますので、支給がおくれる見込みです。県から送付がありがたい通知します。

市内の表彰者
▼日本赤十字社銀色特別社員賞 岩貞昭三、太田行彦、大町駿一、徳橋淳一
▼献血功労受賞者 田中俊光、岡田茂範、森理、別役先啓、有瀬圭彦、六久保直、中村さち、沢本葉子